

1. 事業説明シート

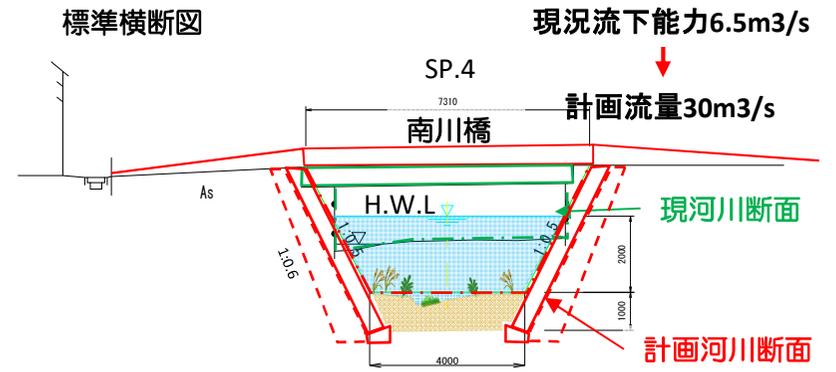
事業名	治水事業 [統一級河川整備事業 (国補)]	事業箇所	南巨摩郡富士川町鯉沢	地区名	南川	事業主体	山梨県																																							
(1) 事業の概要				(3) 事業の妥当性評価																																										
①課題・背景 一級河川南川は、南巨摩郡富士川町鯉沢を西から東に流下し一級河川富士川に合流する流域面積A=1.86km ² 、流路延長2.0kmの一級河川である。 令和元年10月の台風を始め過去の大雨の際には増水し、度々越水する恐れが生じていた。計画流量30m ³ /s (30年確率) に対し、現況流下能力が不足していることに起因しており、要配慮者利用施設が複数存在することからも、早急に治水対策を行う必要がある。				妥当 妥当でない ①公共関与の妥当性 (行政が行うべき事業か) 河川法第1条及び第9条により、河川の洪水防止を義務づけられている。 <input type="radio"/> ○ <input type="checkbox"/>																																										
②整備目標・効果 □主要目標 ○洪水被害の防止 ・改修目標流量に対する現況流下能力の割合: 0.22<0.4以下※ ・浸水被害又は水防活動の実績: 有 ・想定氾濫区域内における災害発生時の影響: 有 (重要な公共施設: 主要地方道 韮崎南アルプス富士川線) (要配慮者利用施設: 医療法人峡南病院、特別養護老人ホーム富士川荘) □副次目標 -				②事業執行主体の妥当性 (県が行うべきか) 県管理一級河川 (指定区間) である。 <input type="radio"/> ○ <input type="checkbox"/>																																										
□副次効果 ○被災時の被害波及の防止 (主要地方道 韮崎南アルプス富士川線 (緊急輸送道路) の保全)				③経済妥当性 <input type="radio"/> ○ <input type="checkbox"/>																																										
				<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">総事業費</td> <td>900 百万円</td> <td>工期</td> <td>R5~R14</td> <td>基準年</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>832 百万円</td> <td colspan="2">便益</td> <td colspan="2">2942 百万円</td> </tr> <tr> <td>建設費</td> <td>737 百万円</td> <td colspan="2">一般資産被害防止額</td> <td colspan="2">192 百万円</td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>95 百万円</td> <td colspan="2">公共土木施設等被害防止額</td> <td colspan="2">2699 百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">その他</td> <td colspan="2">51 百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="4">B/C</td> <td colspan="3">3.5</td> </tr> </table> ※その他は、農作物被害便益、営業停止損失便益、応急対策費用便益 費用便益比 (B/C) は、国の採択基準1.0を超えている。				総事業費		900 百万円	工期	R5~R14	基準年	R4	経済効率性	費用	832 百万円	便益		2942 百万円		建設費	737 百万円	一般資産被害防止額		192 百万円		維持管理費	95 百万円	公共土木施設等被害防止額		2699 百万円				その他		51 百万円		B/C				3.5		
総事業費		900 百万円	工期	R5~R14	基準年	R4																																								
経済効率性	費用	832 百万円	便益		2942 百万円																																									
	建設費	737 百万円	一般資産被害防止額		192 百万円																																									
	維持管理費	95 百万円	公共土木施設等被害防止額		2699 百万円																																									
			その他		51 百万円																																									
B/C				3.5																																										
				④事業実施・規模の妥当性 <input type="radio"/> ○ <input type="checkbox"/> 当該箇所は流下能力が不足しており、恒常的な浸水被害を防止するため、最も効果的な事業規模である。																																										
				⑤整備手法の有効性 <input type="radio"/> ○ <input type="checkbox"/> 浸水被害を早急に解消するために、経済性も踏まえ最も有効な手法である。																																										
(2) 整備内容				⑥環境負荷等への配慮																																										
①整備内容 河川改修 L=100m ②着手年度 令和5年度 ③完成見込年度 令和14年度 ④総事業費 約900百万円 (国費450百万円(5/10)県費450百万円(5/10))				<input type="radio"/> ○ <input type="checkbox"/> 埋戻し等は極力現地材を利用し、植生については在来種が生育するよう環境に配慮する。																																										
⑤年度別の整備内容 (事業費) 令和5年度 測量・地質・設計 30 百万円 令和6年度 設計・用地調査・関係機関協議 30 百万円 令和7年度 ~ 関係機関協議・用地補償 300 百万円 令和9年度 令和10年度 護岸改修工事 一式 540 百万円 ~ 橋梁架替工事 一式 令和14年度				⑦事業計画の熟度 <input type="radio"/> ○ <input type="checkbox"/> 地元要望が強く、熟度は高い。																																										
※記載内容は見込みであり、確定したものではない。 ⑧既整備内容・期間・事業費 既整備内容: 河川改修 L=0.6km (直轄管理区間 L=0.55km、県管理区間L=0.05km)				総合評価 [貢献度ランク: a]																																										
				(4) 事業位置図等 																																										

2. 添付資料シート

平面図（航空写真）



標準横断面図



平常時の南川（台風前）



台風19号により水位が急激に上昇した状況



土のうによる氾濫対策実施状況

令和元年10月 台風19号による出水状況及び水防活動状況